

那覇市長 宛

令和 2 年 11 月 24 日

団体名 しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄

代表者 秋吉晴子

担当者 秋吉晴子

新型コロナウイルス感染症対応『市民活動チャレンジ助成事業』

## 中間報告書

令和 2年7月16日付、那覇市指令市ま第1166号で交付決定の通知を受けた当該事業について、  
下記のとおり報告します。

1.事業名	コロナ禍におけるひとり親と子どもたちのセーフティネット構築
2.実施内容 (交付決定から現在までの実績を具体的に記入)	(1) おしゃべり会及びオンライン相談 ・7月26日14時-16時(若狭公民館)5名参加 ・メール・LINE・面談での相談 8名 (主にひとり親特別臨時給付金に関する事項) (2) 企業等と連携した食品支援 ・11月4日学生が主体となる食糧支援団体VONSさんのMug ムグフードプロジェクト(南風原ジャスコ)にて食品贈呈を受ける。 ・11月18日メールマガジンにて「無料お米配送 第3段」告知(130世帯を予定) →12月上旬発送予定(ひとり親向け支援先一覧チラシ・おしゃべり会案内チラシ等を同封) ・当団体のおしゃべり会案内チラシは本事業を含むコロナ禍支援に対応させるよう、改訂しました。
3.これまでの活動の 振り返り  ・良かった点 ・工夫した点 ・不安な点 ・課題や反省点 など	(良かった点) ・当団体によるTV、ラジオ、シンポジウム、オンライン講座での発信を受けて、コロナ禍の状況におけるひとり親家庭への関心が寄せられ、市民グループをはじめ、企業からの声掛けがあり、より食糧支援がし易くなった。(工夫した点) ・時間の許す限りメディアの取材に応じ、講座、シンポジウム等を引き受け、より伝わりやすい言葉、数値でひとり親家庭の状況について説明に努めた。 ・お米の支援については、ひとり親家庭だけでなく、離婚を前提とした別居期間の長い家庭も対象としたこと。 (課題や反省点) ・スタッフが少ないため、代替がきかない。事業規模が大きくなると、1人にかかる負担が大きくなる。ボランティア団体なので、仕事を休んでまで対応ができない。などの課題があった。 (なお、これらは以前からの課題であって、今回に特化されたものではない)
4.年度内の事業予定	(何をいつ実施するか、対象者や実施場所、など) ・お米無料配布第3段を進める(12月上旬に完了予定)対象世帯は約130世帯 ・ひとり親家庭からの個別相談の対応(随時) ・ひとり親家庭の社会的課題についての社会への発信等(随時) ・全国のひとり親家庭ネットワークとの連携(随時) ・メルマガ配信(「あすのば入学・新生活応援給付金-2020年度」、「教育費サポートブック2020」、「ひとり親家庭臨時特別給付金」などの活用についての広報とバックアップ) (毎月) ・沖縄県労働金庫とのクリスマスコラボレーション食品支援事業(～12月11日) ・サイボウズのソフト(キントーン、メールワイズ)を導入した支援事業については、当初予定していたより、負担が大きいため、スタッフの今後の状況(体調等)によっては実施を見送る可能性があります(その場合予算は消化せず返納します)。  なお、上記のほか他に他の助成金を利用したひとり親食料支援事業(140世帯を対象)を12月下旬に実施予定です。

11月3日南風原ジャスコ  
「Mugムグフードプロジェクト」

向陽高校の学生さんも  
フードプロジェクトの  
お手伝いをされていました。



食糧贈呈を受けて、  
ご挨拶させていただきました。  
南風原町長、南風原ジャスコ店長、  
社協、学生のみなさんの協力のもと  
VONSさんのフードプロジェクトは  
大成功でした。



5.写真  
(レイアウト自由・  
簡単な説明文を記入)